

2026年 3月期

# 決算説明会

2026年 5月 13日

杏林製薬株式会社

代表取締役社長 荻原 豊



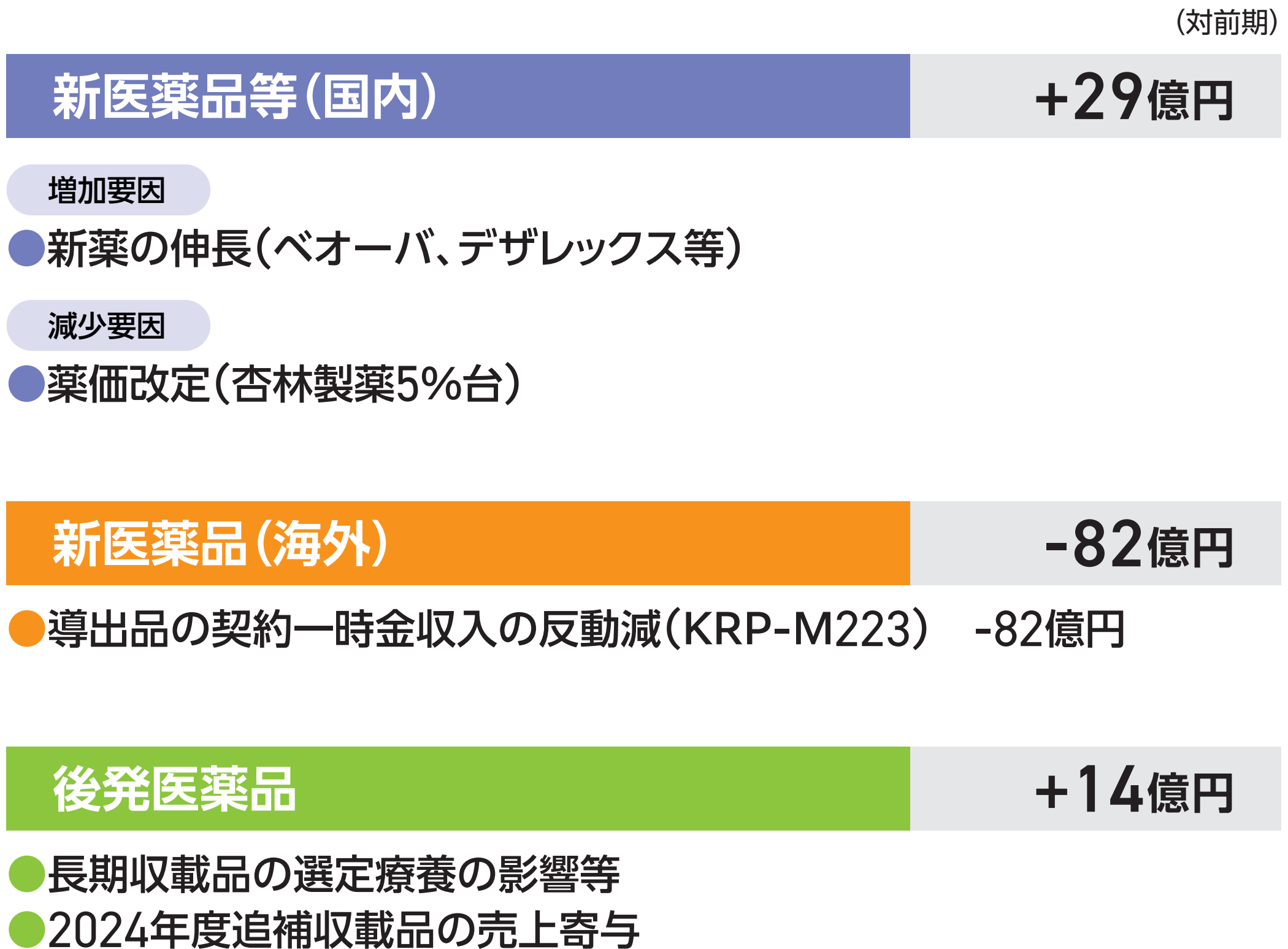
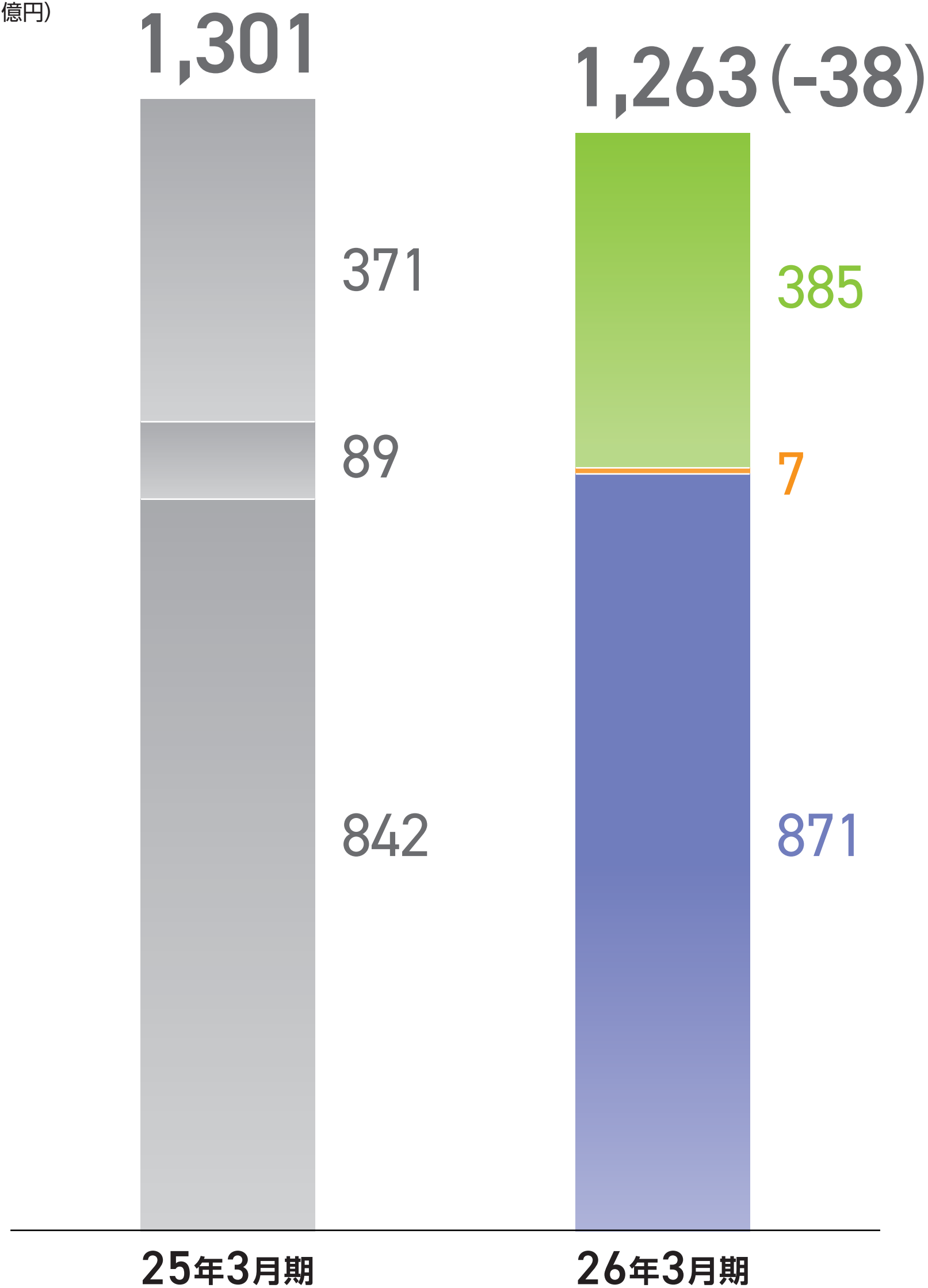
- **2026年3月期 連結決算の概況**
- **2027年3月期 連結業績予想**
- **研究開発パイプラインの状況**
- **参考 新医薬品、後発医薬品の状況**

## ■ 2026年3月期 連結決算の概況

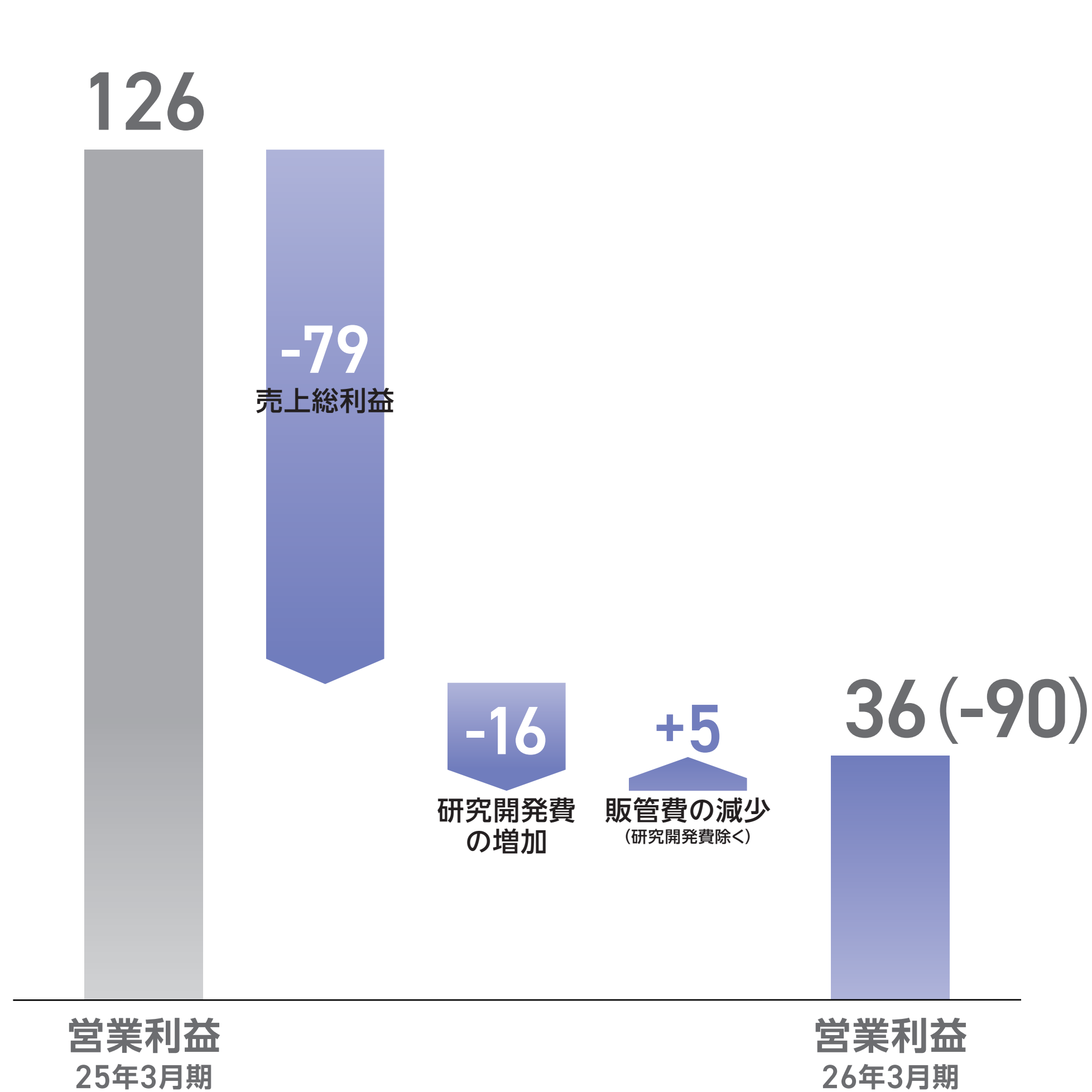
(単位：億円)

	25年3月期	26年3月期	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	1,301	1,263	-38	-2.9
新医薬品等(国内)	842	871	+29	+3.5
新医薬品(海外)	89	7	-82	-92.2
後発医薬品	371	385	+14	+3.7
売上原価	706	746	+40	+5.8
売上総利益	595	516	-79	-13.3
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	470 (105)	481 (121)	+11 (+16)	+2.3 (+14.7)
営業利益	126	36	-90	-71.6
経常利益	132	40	-92	-69.5
親会社株主に帰属する当期純利益	91	34	-57	-62.0

(単位：億円)



(単位：億円)



(対前期)

## 売上総利益

-79億円

売上高 **38億円減少**

売上原価率 **4.9ポイント上昇**

低下要因

- 新薬の売上増加(ベオーバ、デザレックス等)

上昇要因

- 導入品の契約一時金収入の反動減(KRP-M223)
- 薬価改定(杏林製薬5%台)
- 後発医薬品の売上増加

## 研究開発費

+16億円

105億円(25/3期) ⇒ 121億円(26/3期)

- 導入品の契約一時金支出  
当期：KRP-A225、KRP-126(BDT272)  
前期：KRP-S124
- KRP-R120のPh3試験費用計上

## 販管費(研究開発費除く)

-5億円

365億円(25/3期) ⇒ 360億円(26/3期)

- 本社移転等によるコスト削減
- 特許等使用料等の増加

(単位：億円)

	26年3月期 予想 (25年5月12日発表)	26年3月期 実績	対予想	
			差異	達成率(%)
売上高	1,270	1,263	-7	99.4
新医薬品等(国内)	890	871	-19	97.9
新医薬品(海外)	2	7	+5	346.5
後発医薬品	377	385	+8	102.0
売上原価	—	746	—	—
売上総利益	—	516	—	—
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	— (104)	481 (121)	— (+17)	— (116.0)
営業利益	61	36	-25	58.5
経常利益	63	40	-23	64.0
親会社株主に帰属する当期純利益	48	34	-14	71.8

## 予想(25年5月12日発表)との差異

売上高	ベオーバは伸長したものの、ラスビック、ムコダインの未達等により、売上高は予想を下回った
研究開発費	KRP-A225、KRP-126(BDT272)導入に伴う契約一時金支出を計上したこと等により、予想を17億円上回った
営業利益	売上高の未達、研究開発費が予想を上回ったこと等により、営業利益は予想を25億円下回った
当期純利益	特別利益として、投資有価証券売却益4億円等を計上

# 2026年3月期 主力製品の売上状況



(単位：億円)

		25年3月期 実績	26年3月期 実績	対前期		26年3月期 予想 (25年5月12日発表)	対予想	
				増減額	増減率(%)		差異	達成率(%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ(自社販売分)	221	258	+37	+17.1	251	+7	103.0
	ラスビック	78	73	-5	-7.2	85	-12	85.7
	リフヌア	9	9	0	+1.6	11	-2	84.4
	デザレックス	96	102	+6	+6.5	101	+1	101.4
	フルティフォーム	137	128	-9	-6.8	132	-4	97.0
	ペンタサ	122	123	+1	+1.4	116	+7	106.4
	キプレス	35	22	-13	-37.7	21	+1	103.8
	ムコダイン	36	37	+1	+3.6	52	-15	71.1
	ミルトン	18	18	0	-1.8	18	0	100.6
	ルビスタ	11	8	-3	-28.6	10	-2	79.0
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	120	114	-6	-4.4	113	+1	101.3
	モメタゾン点鼻液「杏林」	41	45	+4	+10.0	43	+2	105.2

## ■ 2027年3月期 連結業績予想

(単位：億円)

	26年3月期 (実績)	27年3月期 (予想)	対前期	
			増減額	増減率(%)
<b>売上高</b>	<b>1,263</b>	<b>1,218</b>	<b>-45</b>	<b>-3.5</b>
新医薬品等(国内)	871	835	-36	-4.1
新医薬品(海外)	7	3	-4	-56.7
後発医薬品	385	379	-6	-1.4
<b>売上原価</b>	<b>746</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>販売費及び一般管理費 (研究開発費)</b>	<b>481 (121)</b>	<b>— (93)</b>	<b>— (-28)</b>	<b>— (-22.9)</b>
<b>営業利益</b>	<b>36</b>	<b>20</b>	<b>-16</b>	<b>-43.9</b>
<b>経常利益</b>	<b>40</b>	<b>23</b>	<b>-17</b>	<b>-42.9</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>34</b>	<b>15</b>	<b>-19</b>	<b>-56.5</b>

## 増減要因(対前期)のポイント

売上高	ベオーバ、ラスビック、ムコダインの伸長を予想するものの、後発医薬品参入によるデザレックスの売上減少等により減収を見込む
研究開発費	導入に伴う契約一時金支出(KRP-A225、KRP-126)、KRP-R120のPh3試験費用の反動減等により減少を見込む
営業利益	販売費及び一般管理費は減少するものの、薬価改定、デザレックスの売上減少等による売上総利益の減少により、営業利益は減益を見込む
売上原価率	約3ポイント上昇
研究開発費除く販管費率	ほぼ横ばい

(単位：億円)

		26年3月期 (実績)	27年3月期 (予想)	対前期	
				増減額	増減率(%)
新医薬品等 (国内)	ベオーバ(自社販売分)	258	267	+9	+3.3
	ラスビック	73	90	+17	+23.5
	フルティフォーム	128	123	-5	-3.9
	リフヌア	9	10	+1	+7.7
	ムコダイン	37	54	+17	+46.2
	ペンタサ	123	102	-21	-17.4
	デザレックス	102	23	-79	-77.5
	キプレス	22	10	-12	-54.1
	ミルトン	18	18	0	-0.6
	ルビスタ	8	7	-1	-11.4
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」	114	101	-13	-11.7
	モメタゾン点鼻液「杏林」	45	39	-6	-13.8

## ■ 研究開発パイプラインの状況

※前回発表(3Q)からの変更点(2026年5月12日現在)

	製品名・開発コード	Ph1	Ph2	Ph3	申請	承認・上市
呼吸器	<b>KRP-R120</b> 間質性肺疾患治療薬				国際共同治験(終了)	
	<b>KRP-S124</b> 閉塞性睡眠時無呼吸治療薬		準備中 26年度開始を目指す			
泌尿器	<b>KRP-114VP</b> ※ 過活動膀胱治療薬				開始	
自己免疫疾患	<b>KRP-A225</b> ※ 全身性エリテマトーデス治療薬	開始(ヒンジバイオ社)				
疼痛	<b>KRP-126</b> ※ (BDT272) 神経障害性疼痛治療薬	国内：準備中(杏林) 26年度開始を目指す				
		海外：実施中(ビオドール社)				

DTx	製品名・開発コード	研究・開発 <sup>1)</sup>	検証的試験 <sup>2)</sup>	申請	承認・上市
耳鼻科	<b>KRP-DT123</b> ※ 耳鳴治療用アプリ		開始		
呼吸器	<b>KRP-DC125</b> 慢性咳嗽治療用アプリ		準備中 26年度開始を目指す		

1) 研究・開発:主にアプリ開発、アプリの性能や有効性を確認  
2) 検証的試験:主にアプリの臨床的意義を確認

導出品	開発コード	導出先	開発段階	備考
	<b>KRP-M223</b>	ノバルティス社	前臨床	●MRGPRX2拮抗作用 ●対象：マスト細胞が関与するアレルギー性疾患、炎症性疾患

## KRP-126(BDT272)

### ■概要

対象疾患	神経障害性疼痛	
モダリティ/作用機序	低分子(FLT3モジュレーター)	
契約	2025/1 オプション契約締結	●経済条件：一時金 →ビオドール社実施のPh1試験、当社でのMTA評価によりオプション権行使を判断
	2026/3 ライセンス契約締結	●テリトリー：日本、韓国、台湾 ●経済条件：一時金・マイルストーンペイメント(最大€79M)、ロイヤリティ
開発状況	Ph1試験実施中(フランス)	

FLT3 : fms-like tyrosine kinase3

### ■神経障害性疼痛

推定患者数	400万人(日本国内)
疾患	体性感覚神経系(痛みを伝える神経)の病変や疾患によって引き起こされる疼痛
現行治療	薬物療法(プレガバリン、ミロガバリン等) 無効例には神経刺激/ブロック療法

2026年度中の国内第1相臨床試験開始を目指す

## KRP-114VP

### ■概要

対象疾患	過活動膀胱(ベオーバの小児適応)
モダリティ/作用機序	低分子(選択的β3アドレナリン受容体作動薬)
患者数	20万人(推定小児尿失禁患者) <sup>1</sup>
現行治療	小児適応のある薬剤はない

1: 市場調査に基づく推計

### ■試験概要

開発ステージ	Ph3試験
目的	小児OAB患者を対象に、KRP-114Vを8週間投与したときの有効性及び安全性を評価する
試験デザイン	多施設共同ランダム化二重盲検比較試験
評価項目	投与8週時における尿失禁改善者割合

Stage3期間中の承認を目指す

## KRP-DT123

### ■概要

対象疾患	耳鳴
モダリティ/作用機序	治療用アプリ
患者数	300万人(臨床的に問題となる耳鳴患者) <sup>2</sup>
現行治療	既存の薬物療法は推奨度及びエビデンスレベルが低い(推奨度2C) <sup>2</sup>

2: 耳鳴診療ガイドライン2019年版より

### ■試験概要

開発ステージ	検証的試験
目的	苦痛を伴う慢性耳鳴患者を対象に、KRP-DT123を16週間使用した時の有効性及び安全性を評価する
試験デザイン	多施設共同ランダム化二重盲検比較試験
評価項目	使用16週時におけるTHI <sup>3</sup> 合計スコアの変化量

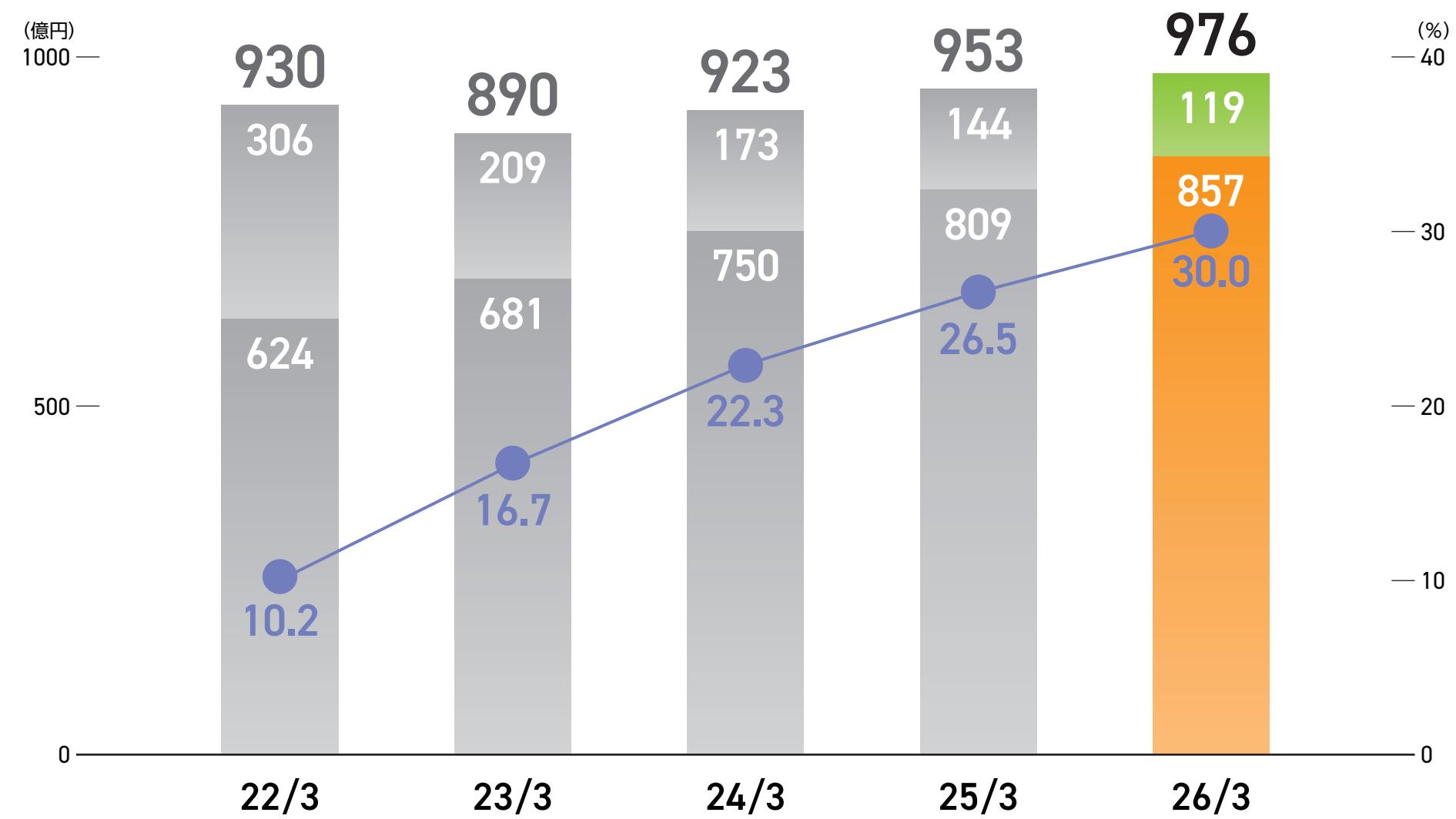
3: 耳鳴苦痛度問診票

Stage2期間中の承認を目指す

■ 参考 新医薬品、後発医薬品の状況

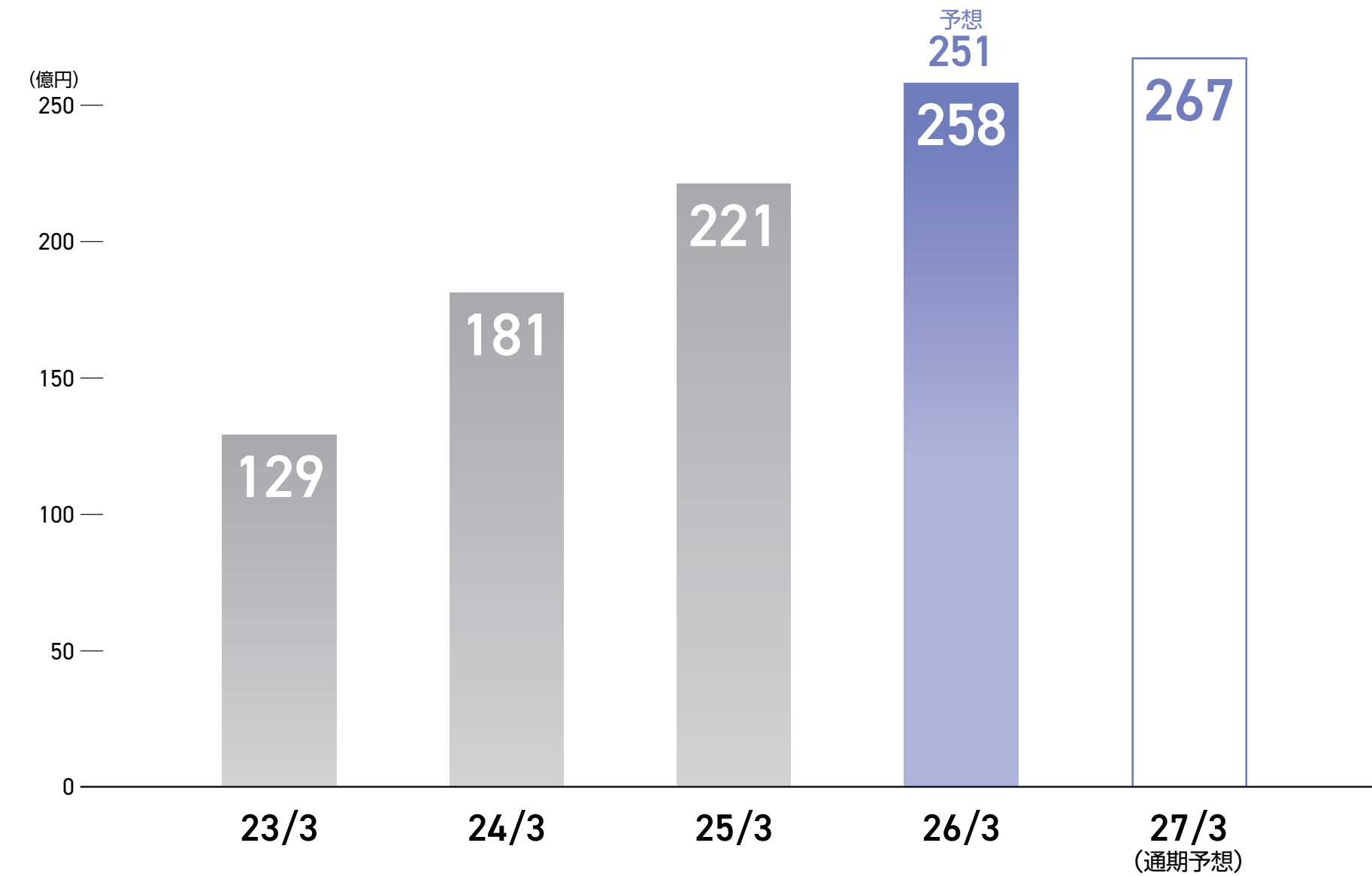
## ■ 過活動膀胱(OAB)治療剤市場

■ 抗コリン薬  
■ β3受容体作動薬  
● ベオーバシェア (自社販売分)



出典: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2022/3 MAT-2026/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

## ■ 売上高



### 市場概況

- 過活動膀胱治療剤市場：2.4%拡大<sup>注1</sup>
- β3アドレナリン受容体作動薬市場の拡大<sup>注1</sup>

### 中長期 市場見通し

- OAB患者数は増加傾向
- 薬価改定及び後発医薬品の影響等はあるもののβ3アドレナリン受容体作動薬市場は拡大

### 取り組み 26年3月期

- 一般内科での患者シェア拡大
- HP泌尿器科の面談率向上と継続的な面談機会創出
- 受診率増加に向けた疾患啓発

### 結果 26年3月期

- 一般内科での新規患者獲得率50%以上を達成、患者シェアも上昇<sup>注2</sup>
- HP泌尿器科の新規患者獲得率は64.9%、患者シェア53.9%<sup>注2</sup>

注1: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2025年3月MAT、2026年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

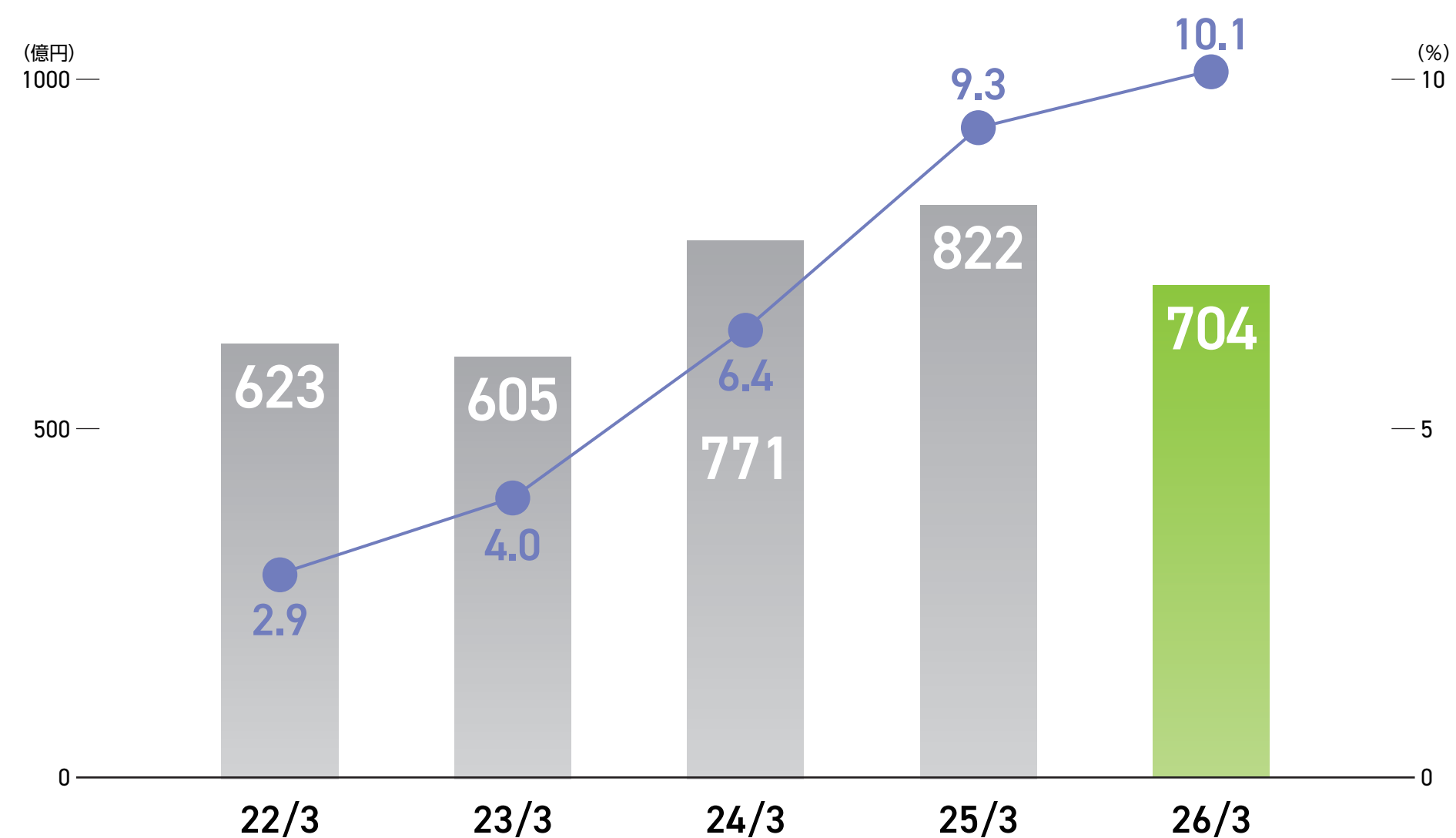
注2: 併売会社との2社合計  
Copyright © 2026 IQVIA. IQVIA Rx 2026年3月を基に自社分析 無断転載禁止

## ■ 経口抗菌剤市場

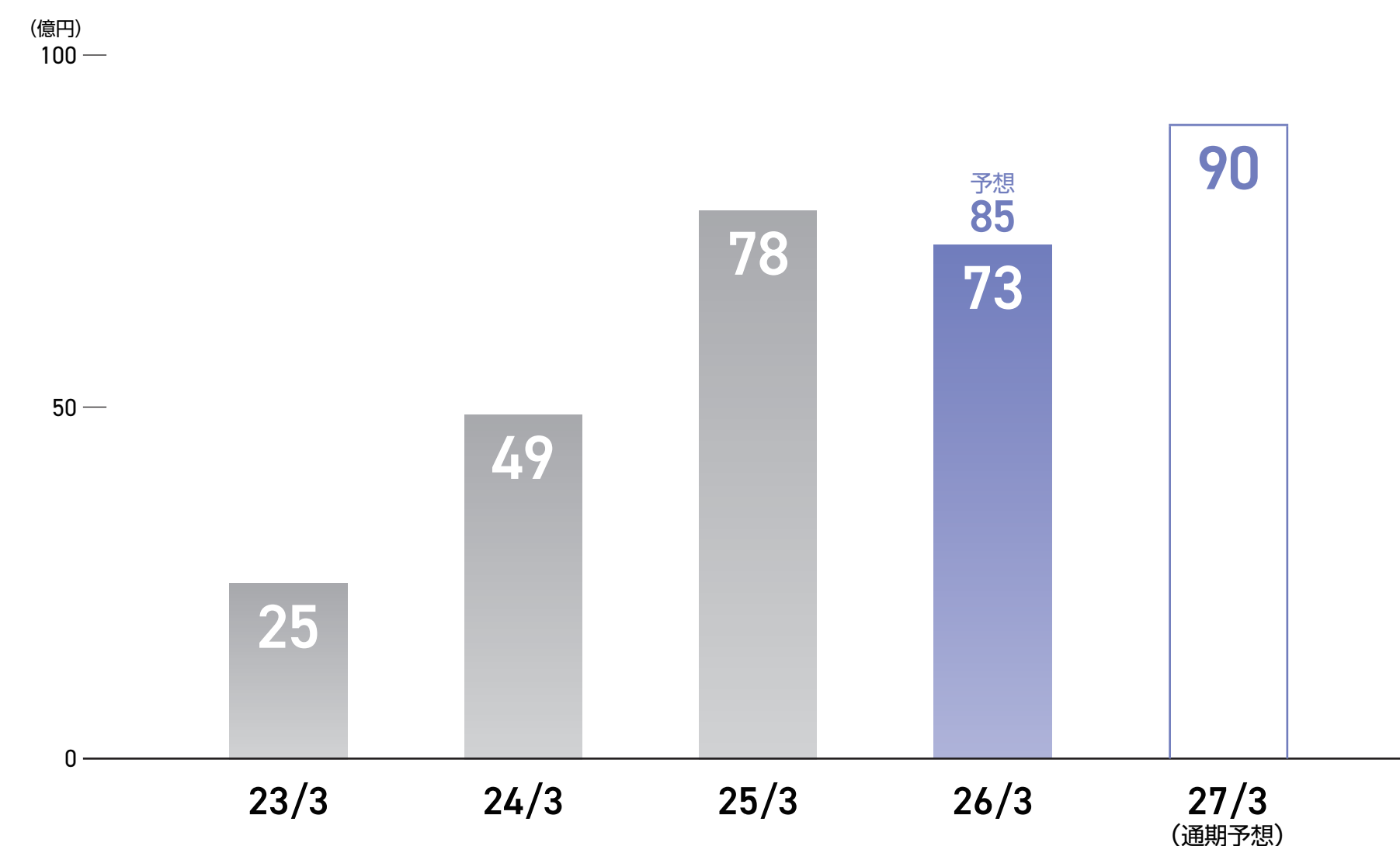
■ 市場売上

● ラスビックシェア

## ■ 売上高



出典: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2022/3 MAT-2026/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止



### 市場概況

- 経口抗菌剤市場：14.4%縮小<sup>注1</sup>  
前年度に比べて感染症が流行しなかった

### 中長期 市場見通し

- AMR対策の推進により  
呼吸器・耳鼻科での経口抗菌剤の処方抑制傾向

### 取り組み 26年3月期

- 各ガイドラインに沿った治療と治療薬の選択を広く啓発
- ラスビックの独自性と新しいポジションの明確化  
HP：大学病院を中心にエリア基幹病院での新規採用拡大  
GP：AMR対象疾患(副鼻腔炎、扁桃炎、咽頭喉頭炎、急性気管支炎)、肺炎での処方提案を推進

### 結果 26年3月期

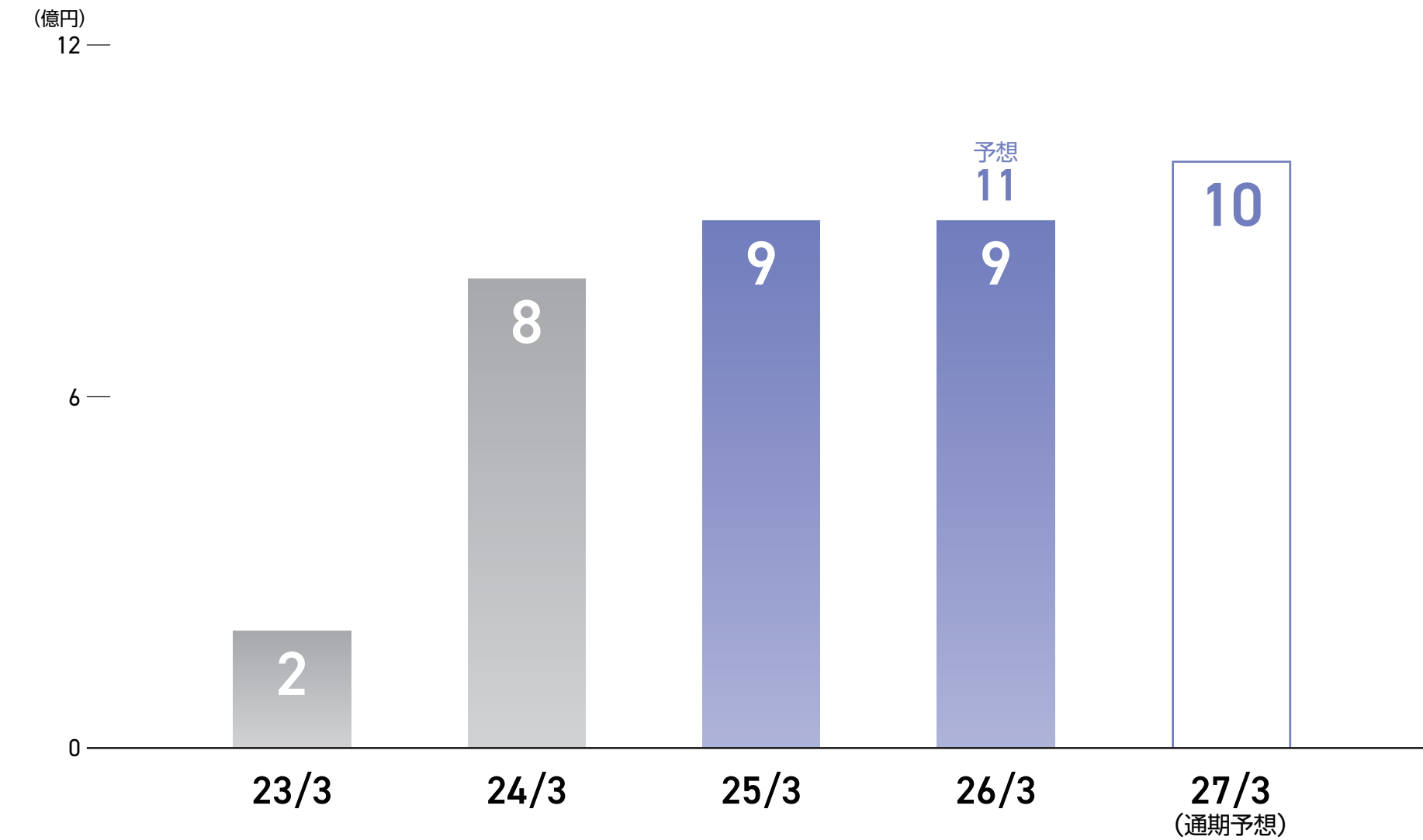
- 経口ニューキノロン市場における売上シェアNo.1<sup>注1</sup>を継続
- 「成人肺炎診療ガイドライン2024」で推奨されていることが評価  
(従来のニューキノロン系抗菌剤と異なる位置づけとして記載)

注1: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2025年3月MAT、2026年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

■ 推定患者数 (有症率から推定)



■ 売上高



取り組み  
26年3月期

- 咳嗽・喀痰の診療ガイドライン2025及び新たなエビデンスの活用
- 製品特性の理解促進 (神経の知覚過敏による咳を抑制等)
- 服薬継続日数向上への取り組み (適切な服薬指導の啓発)

結果  
26年3月期

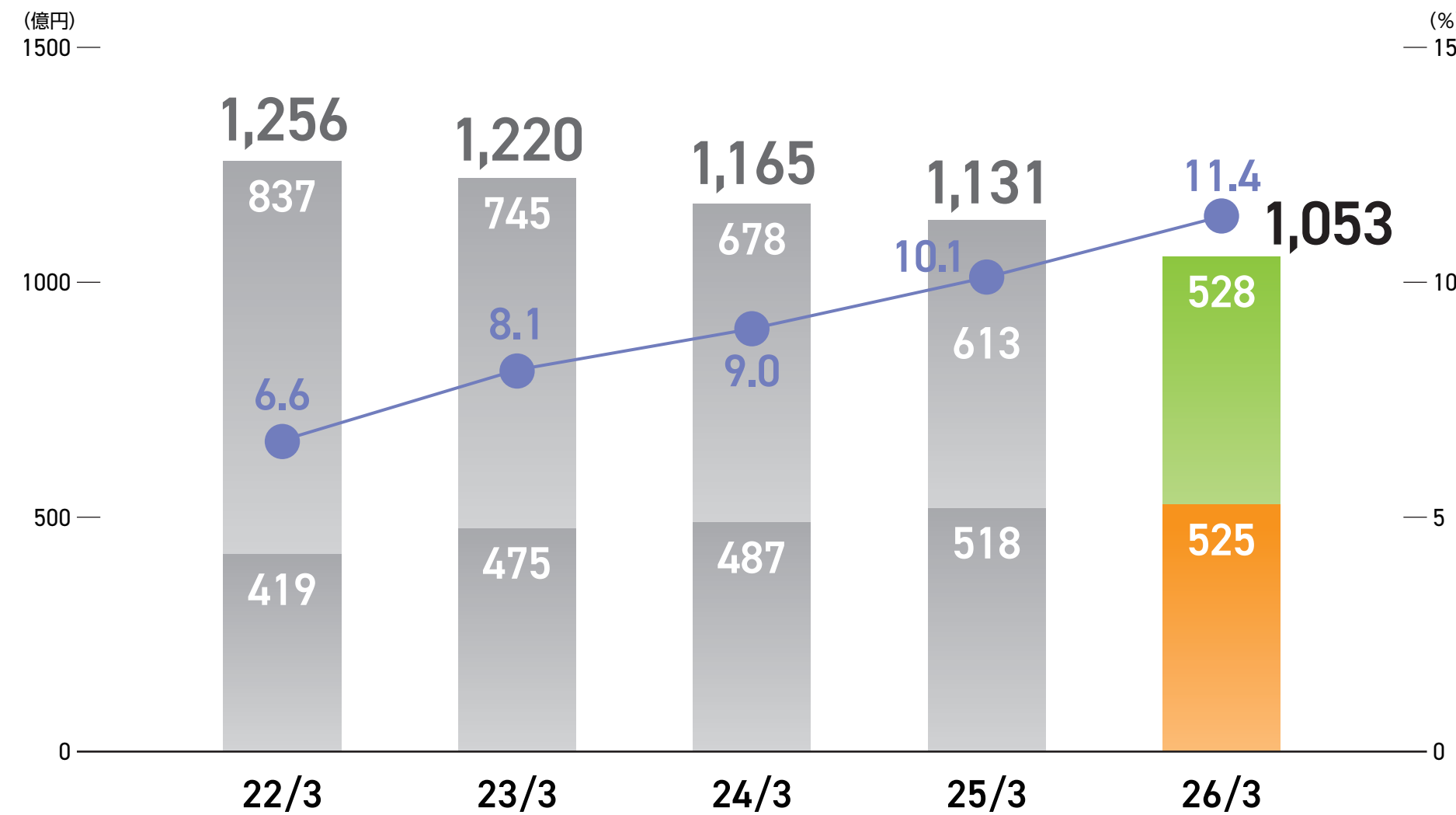
- GLに沿ってCHS (咳過敏症症候群) の概念も含め、新しい選択肢として、具体的な位置付けを提案
- 売上は横ばい

## ■抗ヒスタミン剤市場

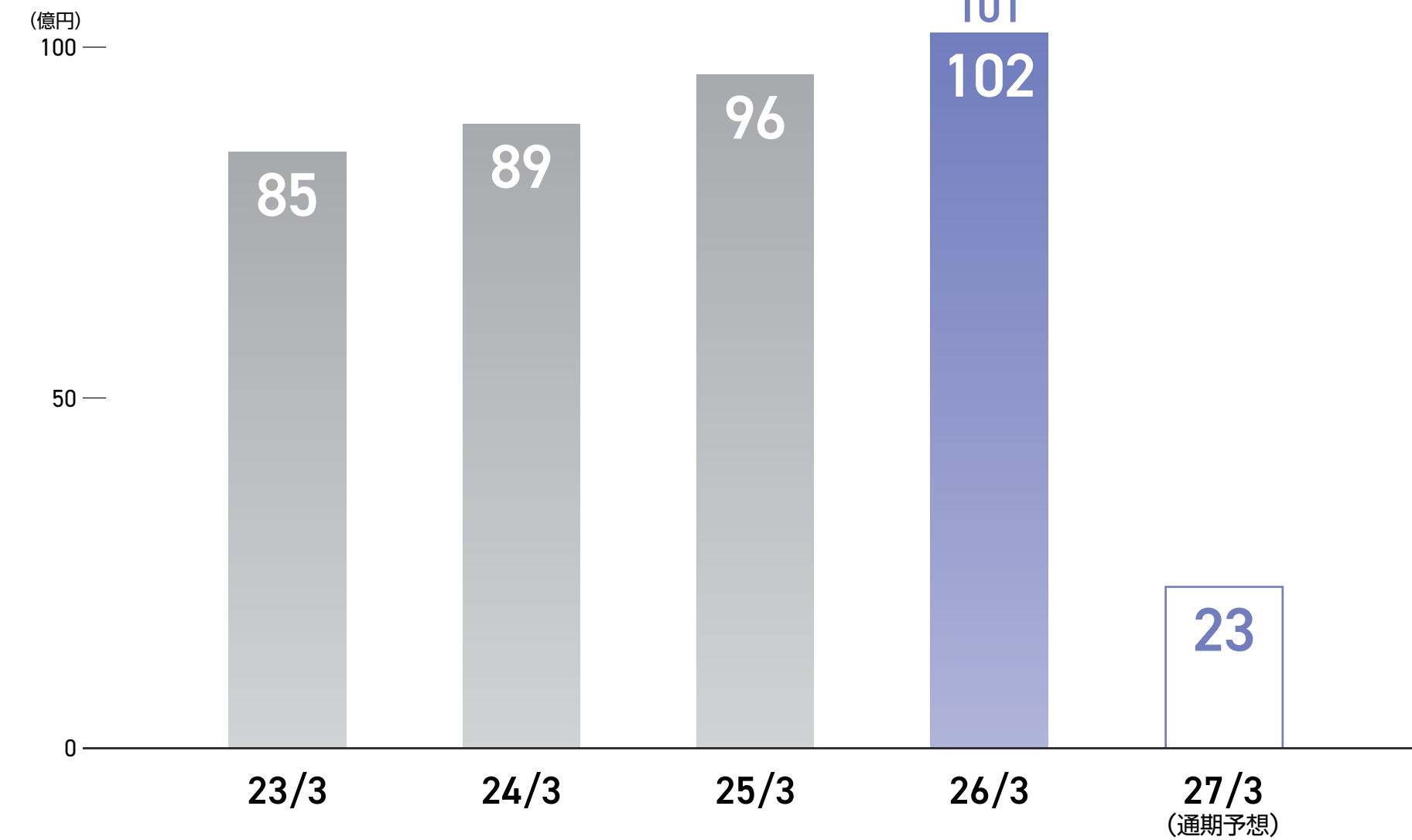
■ 長期収載品・後発医薬品  
■ 新薬

● デザレックスシェア

## ■売上高



出典: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2022/3 MAT-2026/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止



### 市場概況

- 抗ヒスタミン剤市場：6.8%縮小<sup>注1</sup>  
薬価改定の影響など

### 取り組み 26年3月期

- 耳鼻科、内科への処方付けの促進
- 有効性と使いやすさを兼ね備えた薬剤としてポジショニング確立

### 中長期 市場見通し

- 患者数は増加傾向  
毎年の薬価改定及び後発医薬品発売等の影響で市場は縮小傾向

### 結果 26年3月期

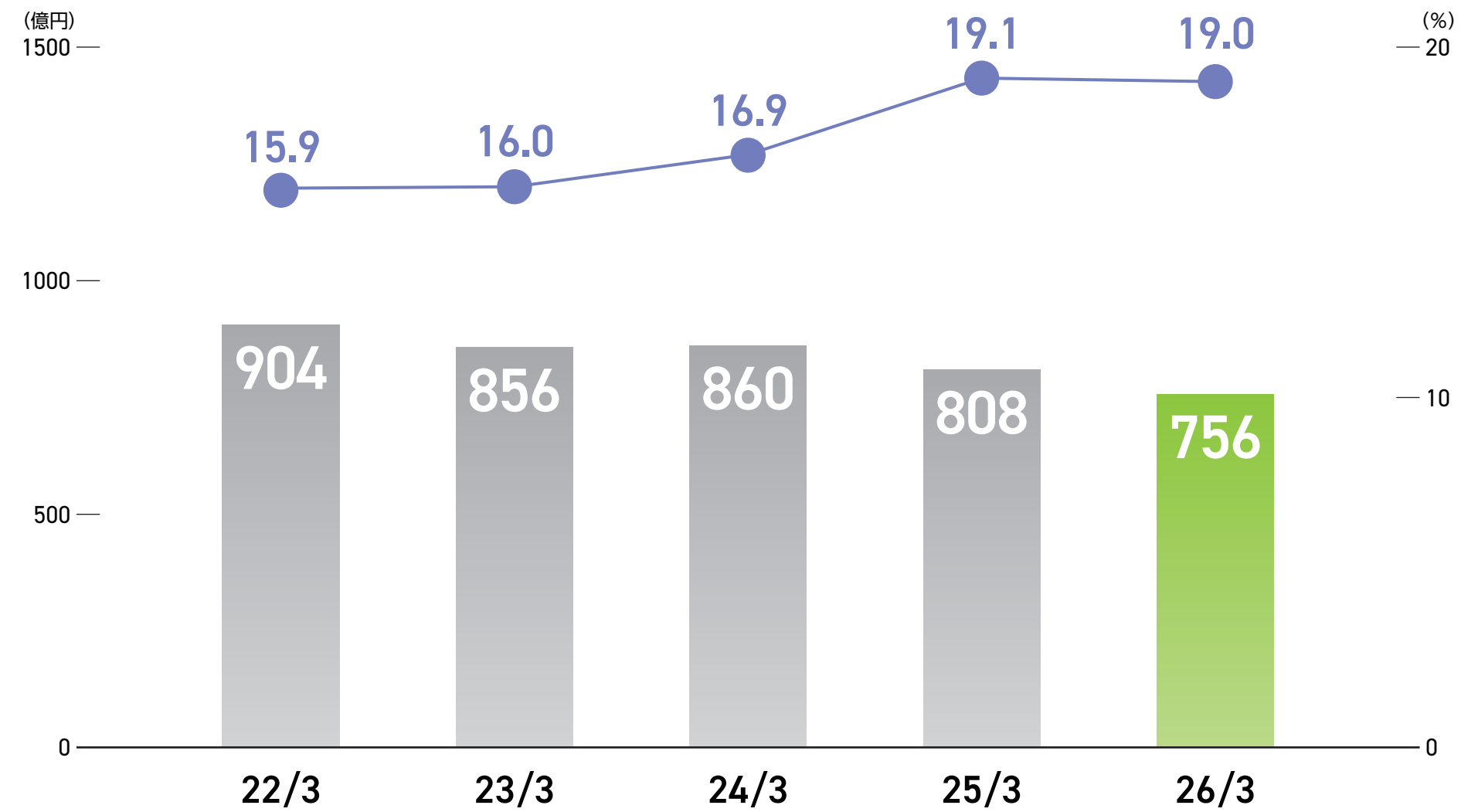
- 処方軒数と1軒当たりの処方患者数の拡大を推進し、売上計画を過達

注1: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2025年3月MAT、2026年3月MATを基に自社分析 無断転載禁止

## ICS/LABA配合剤市場

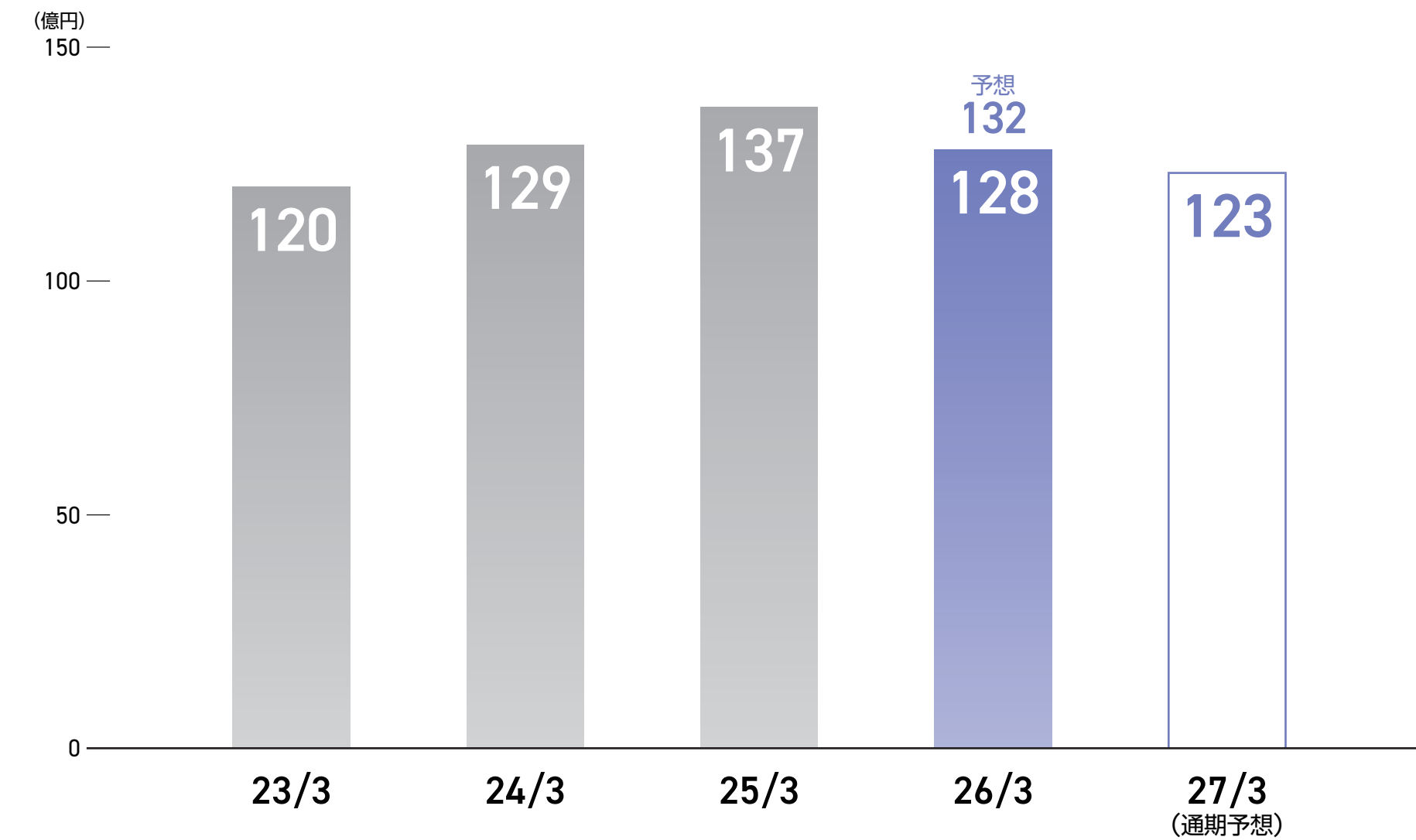
■ 市場売上

● フルティフォームシェア



出典: Copyright © 2026 IQVIA. JPM 2022/3 MAT-2026/3 MATを基に自社分析 無断転載禁止

## 売上高



### 市場概況

- ICS/LABA配合剤市場：6.5%縮小<sup>注1</sup>  
薬価改定の影響など

### 取り組み 26年3月期

- 吸気力が弱い患者に適したエアゾール製剤として有用性を訴求
- リフヌアのプロモーション活動との相乗効果による処方拡大

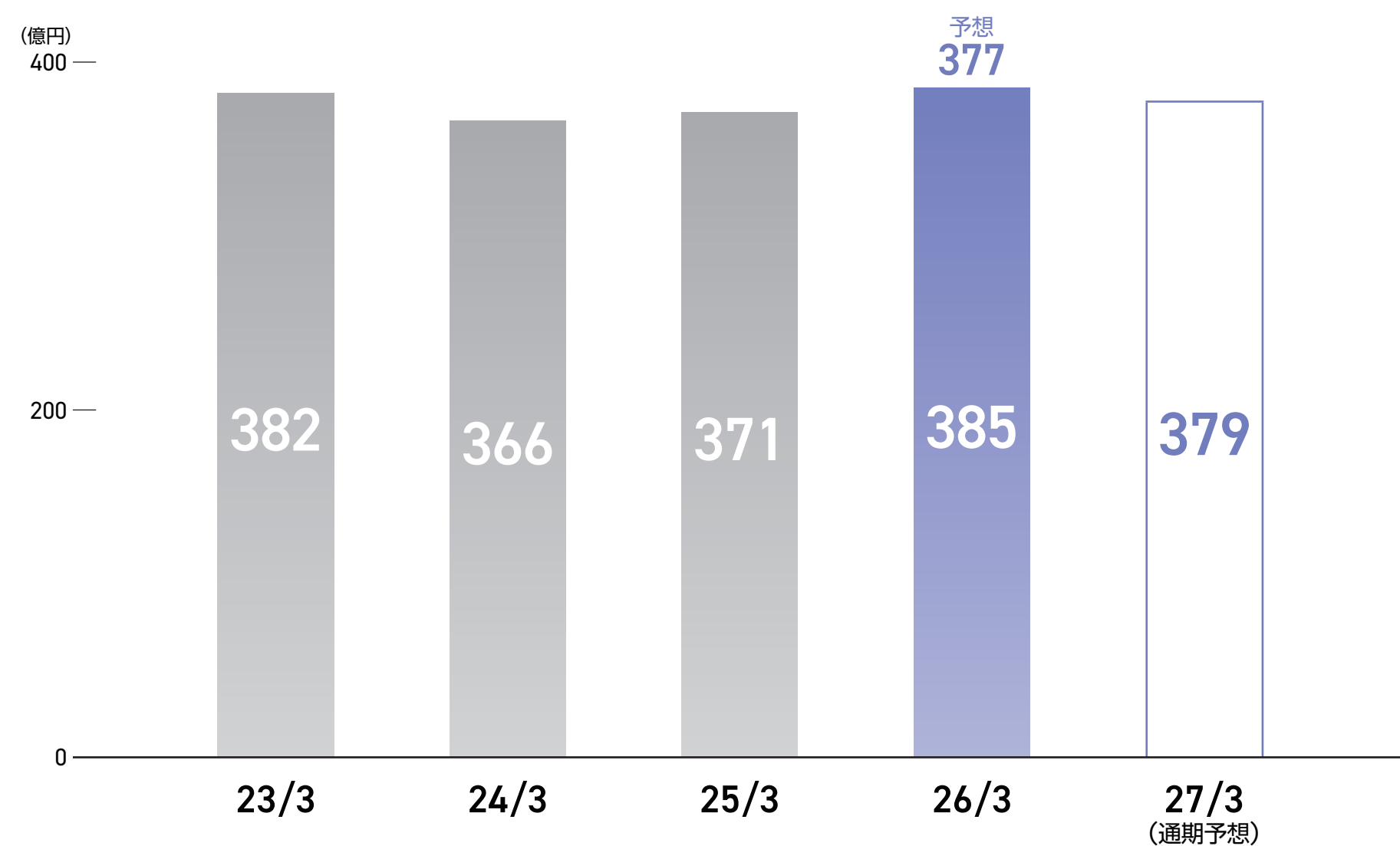
### 中長期 市場見通し

- 患者数は増加傾向であるものの、  
薬価改定及び後発医薬品の影響等により市場は横ばい傾向

### 結果 26年3月期

- 数量は維持したものの、薬価改定の影響を受け売上は減少

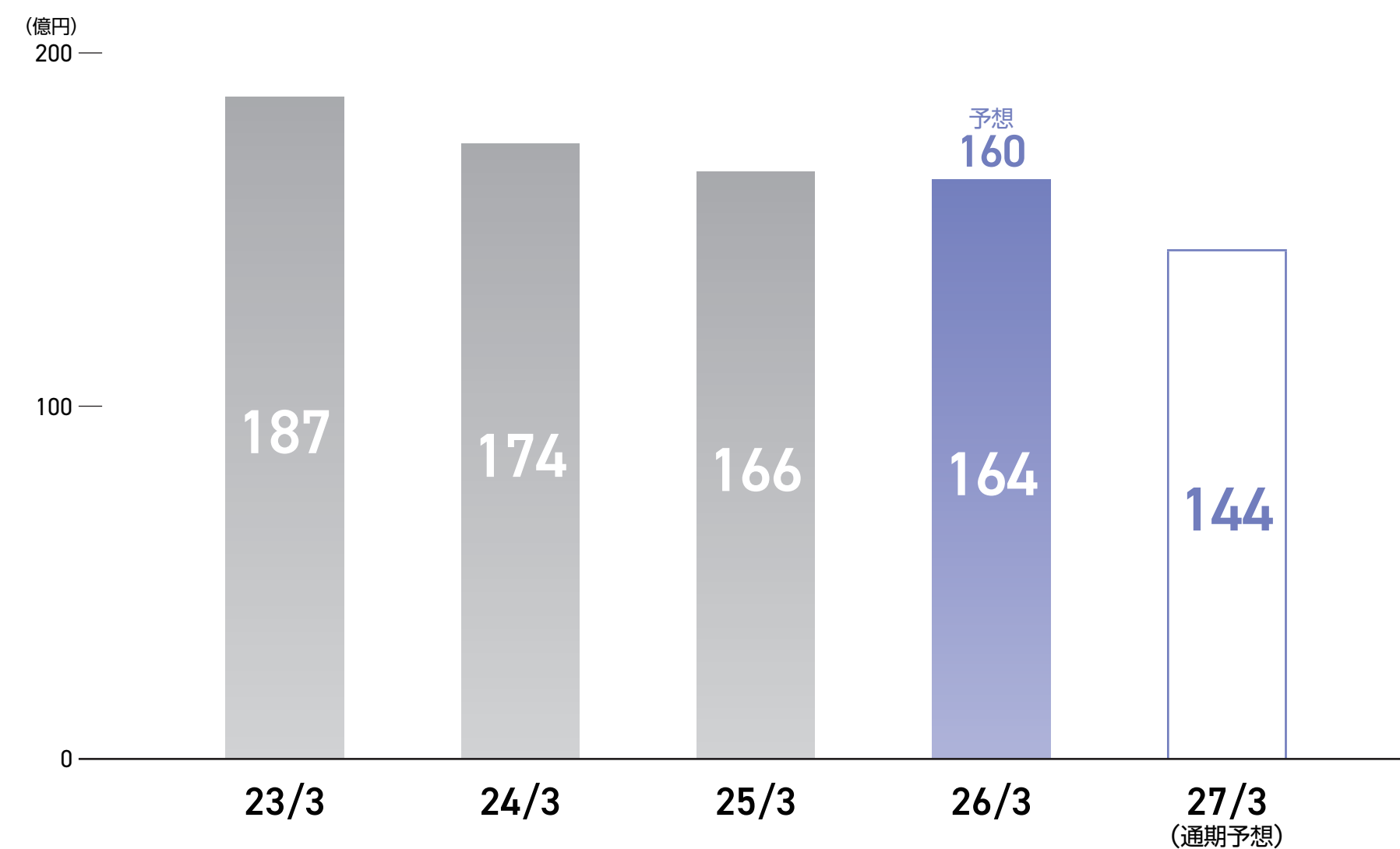
■後発医薬品 売上高



25年度の結果

- 長期収載品の選定療養の影響による数量伸長
- 24年度の追補収載品及び重点品目の売上拡大

■左記の売上高のうちAG合計(3製品)



25年度の結果  
(AG)

- 薬価改定により売上は微減となったものの、数量は伸長
- 対予想も4億円過達
- GE内AGシェアは50%以上を継続

## ●将来見通しに関する注意事項

---

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

*Kyorin* 